

一般社団法人日本色彩学会 2021 年度（令和 3 年度）第 3 回理事会 議事録

【日時】 2021 年 8 月 10 日（火） 13:00 ～ 18:00

【場所】 Zoom 利用による遠隔会議

【出席者（敬称略）】

会長 篠田 博之

副会長 眞鍋 佳嗣, 山内 泰樹

理事 小濱 朋子[記録], 片山 一郎, 木村 敦, 櫻井 将人, 下川 美知瑠, 高田 瑠美子, 西省
吾, 若田 忠之

監事 高橋 晋也

オブザーバー

石原 久代（東海支部長）, 石田 泰一郎（関西支部長）

事務局 八木橋 生輔

【欠席者（敬称略）】

理事 大井 尚行

監事 東 吉彦（関東支部長）

【配布資料】

R3-3-1-1_（一社）日本色彩学会総会_2021 年度総会議事録（案）

R3-3-1-2_（一社）日本色彩学会 2021 第 2 回理事会議事録（案）

R3-3-2-1-1_組織図 20210810

R3-3-2-1-2_2021 年度委員会名簿

R3-3-2-2-1_2022 年度学術コラージュ

R3-3-2-2-2_学術コラージュ会告

R3-3-2-4-1_2021（令和 3）年度第 3 回理事会_広報委員会_学会 HP 改編案_本資料

R3-3-2-4-2_2021（令和 3）年度第 3 回理事会_広報委員会_学会 HP 改編案_添付資料

R3-3-2-4-3_広告企画書 2021

R3-3-2-5-1_理事会_編集_大会関連業務通知

R3-3-2-6-1_DRAFT MOU_Final version)

R3-3-2-7-1_ヒューマンインタフェース学会「ヒューマンインタフェースシンポジウム 2021」（回答済）

R3-3-2-7-2_日本光学会「Optics & Photonics Japan 2021」（回答済）

R3-3-2-7-3_日本オプトメカトロニクス協会「色彩工学—その基礎と新しい表色系」技術講座（回答済）

R3-3-2-8-1_理事会資料 2021, 第 3 回（個人情報削除）

R3-3-3-2-1_第 3 回理事会資料（2021 年 8 月 10 日）

R3-3-3-3-1_理事会_編集_令和 3 年度第 1 回学会誌編集委員会議事録

R3-3-2-5-2_理事会_編集_新学会誌・論文誌の名称について

R3-3-3-4-1-1_第 53 回全国大会実行委員会議事録第 1 回・2 回（理事会用）

R3-3-3-4-1-2_2021 年度第 3 回役員会議事録（案）（理事会用）

R3-3-3-4-2-1_関西支部令和 2 年度第 6 回役員会議事録

片山理事が議事進行を務め、2021年度（令和3年度）第3回理事会の成立と開会を宣した。
（理事：出席11名／監事：出席1名、オブザーバー2名）

【議題】

1. 議事録確認（担当：片山理事）

（一社）日本色彩学会総会_2021年度総会議事録（案）（資料R3-3-1-1）、および、（一社）2021年度第2回理事会議事録（案）（資料R3-3-1-2）が提示。確認の上、満場異議なくこれを承認した。

2. 審議事項

2-1 学会組織図および各種委員会名簿の更新（担当：片山理事）

（1）学会組織図について、組織図20210810（資料R3-3-2-1-1）に基づき片山理事より説明があり、変更箇所（黄色のマーキング部分）について審議が行われた。「会誌改革WG」は廃止でなく継続、「色彩賞検討WG」は廃止、「色彩データ・ライブラリ検討WG」は廃止で「色彩データ・ライブラリ委員会」を新設することとなった。また、「教育普及委員会」の下部に「色彩講座実行委員会」を組織することとした。その他新設、名称変更の箇所についても意義はなく承認された。以上の審議結果を反映した確定版を作成し、近日中にWebページへ片山理事が掲載する。

（2）各種委員会名簿について、2021年度委員会名簿（R3-3-2-1-2）に基づき片山理事より説明があり、審議が行われた。黄色のマーキング部分は未確認であるが問い合わせ中。おそらく承認していただける予定。追加組織として「色彩データ・ライブラリ委員会」を加え、委員長として高橋先生にお引き受けいただくことになった。委員会の構成としては、高橋先生のほか、会長、副会長2名、教育普及委員長の計5名で行うことが依頼された。また、「教育普及委員会」の下部に組織された「色彩講座実行委員会」も名簿に追加することとなった。

以上の審議結果を反映し、委員が決定したら、Webページへ片山理事が掲載する。

2-2 表彰関連事項（担当：眞鍋理事）

2022年度学術コラージュ研究助成について、2022年度学術コラージュ（資料：R3-3-2-2-1）、および、学術コラージュ会告（資料：R3-3-2-2-2）の資料を基に眞鍋理事より説明があり、審議事項が承認された。

2-3 事業関連事項

（1）2021年度の研究会大会の実施について、眞鍋理事が説明された。実行委員長は鈴木卓治先生で、11月20～27日の約1週間の研究会旬間とし、研究会が独自のイベントを行うことを計画している。合同研究会の実施などいくつか決まっていることもあるが、実行委員や参加費など決まっていないことも多く、次回の理事会で決定したいとのこと。今回の理事会では、鈴木卓治先生を実行委員長とすることを承認した。また、来年度以降の研究会大会のあり方については、実行委員長の選定、会場の確保、参加費のありかた、費用対効果のとらえ方などに課題があり、全国大会を3日間にして研究会を知ってもらう機会を作ってはどうか、秋の合同研究発表会の機会は有効、などの意見交換がなされたが、今年度の秋、次回理事会の後あたりに、将来構想委員会を主体として別途議論を行うこととした。

（2）関東支部役員会において、北畠支部顧問から色彩学会の検定試験対応委員会の現在の活動が不

明瞭だと問題提起されたことが、東関東支部長からの書面を介し篠田会長より説明された。日本色彩学会と東商との契約書類の最終版を事務局から提示いただき、それを基に、まずは、山内事業担当副会長が検定試験対応委員会の長谷川委員長に現状（作問依頼や費用の件など）をおうかがいし、さらに不明瞭な部分があれば、篠田会長が東商に現在の検定試験における色彩学会とのかかわり方をお聞きして事実関係を明確にし、今後の色彩学会の検定試験への関わり方について改めて検討することとした。また、検定試験対応委員会の活動経緯（従事してきた方の役割や実績など）が把握できるよう、過去からの情報収集を事務局に依頼した。情報が整理できた段階で篠田会長から東支部長に連絡し、北畠支部顧問に返答していただく。

2-4 広報委員会関連事項（担当：若田理事）

（1）学会 HP について

2021（令和3）年度第3回理事会_広報委員会_学会 HP 改編案_本資料（資料 R3-3-2-4-1）、2021（令和3）年度第3回理事会_広報委員会_学会 HP 改編案_添付資料（資料 R3-3-2-4-2）に基づき、若田理事より①～④の提案の説明があった。

①HPの維持管理

外部委託せずに事務局や学会員で行える可能性がある。AIC2015 で実践された眞鍋先生から篠田会長、八木橋さんに講習会を行っていただき、自前で行えるか検討することとした。

②クラウド機能の追加

会議資料の共有は優先順位が高く、限定された学会員で取り扱われるデリケートな情報であるため、将来的にはHPと連動するしくみを考えつつ一旦HPの構築から切り離し、総務担当と事務局を中心に利用しやすいフォルダー管理のしくみを早急に考えることとした。片山理事の現在の業務を中心に、最新資料を確実に効率的にアップできる方法を模索し、第4回の理事会の資料管理からトライアルをはじめ。

③学会内各組織（支部、研究会）の情報の統一および更新

支部や研究会の各活動の情報をある程度均一化して発信するために、学会HP用のフォーマットを作り推進していくことについて承認された。

④学会情報の追記

若田理事から意向が説明されたが、発信する情報は精査する必要があり責任も伴うため今回は見送り、将来、学会から発信できるコンテンツやしくみが整った際に再考することとした。

（2）会誌電子化後の広告掲載について

学会誌の電子化に伴う広告掲載料変更後の広告掲載依頼の文書について、広告企画書 2021（資料：R3-3-2-4-3）を基に若田理事より説明があり、審議された。ニュースは学会誌の一部となっているので、「同時発行しているニュース」という表現で問題ないか、事務局内で確認することとなった。なお、この資料の掲載料は現状の金額であるため、電子化に向けて再検討された金額に変更される。

2-5 学会誌編集委員会関連事項（担当：木村理事）

（1）全国大会・研究会大会における編集業務について

理事会_編集_大会関連業務通知（資料 R3-3-2-5-1）に基づき、木村理事より説明があり、全国大

会・研究会大会のHPなどにおいて、①大会予稿集のCD-ROMなど郵送配布はしないこと、②大会予稿集の原稿差し替えは期限後行えないことを明記することを承認し、今後、業務の申し送り事項として伝達していくこととした。

(2) 新学会誌・論文誌の名称について

学会誌の電子化に伴い「新学会誌」と「論文誌」の名称を再考する必要がある。会誌改革WG、学会誌編集委員会、論文誌編集委員会、CRA副編集長を対象に、アンケートの結果をもとに考えた案として、木村理事より理事会_編集_新学会誌・論文誌の名称について(資料:R3-3-2-5-2)を基に説明があった。提案された名称は、学会誌の活性化に向けた思いやシステムの都合など様々な背景を考えていることは理解できるが、アンケート結果との関連性が不明瞭で、多くの同意を集めるには至らなかった。名称決定までに多少の時間はあるとのことなので、本件にご尽力いただいている坂本先生と、関連メンバー、有志の理事も交えて再検討をお願いすることにした。なお、理事会で出された多数の意見は録音されているので再検討の際に参考にさせていただきたい。

2-6 国際交流委員会関連事項

タイ王国の色彩学会とのMOU締結に向け、国際交流委員長の岡嶋先生が先方と整えた書面DRAFT MOU_Final version(資料R3-3-2-6-1)を基に篠田会長が説明された。異論はなく承認され、今後この書面をもって岡嶋委員長と篠田会長が正式にMOUを締結する段取りを進める。

2-7 総務関連事項(担当:片山理事)

片山理事より3件の協賛依頼 ①ヒューマンインタフェース学会「ヒューマンインタフェースシンポジウム2021」(回答済)(資料R3-3-2-7-1)、②日本光学会「Optics & Photonics Japan 2021」(回答済)(資料R3-3-2-7-2)、③日本オプトメカトロニクス協会「色彩工学—その基礎と新しい表色系」技術講座(回答済)(資料R3-3-2-7-3)が紹介され、承認された。

2-8 入会審査(担当:片山理事)

片山理事より理事会資料 2021, 第3回(個人情報削除)(資料R3-3-2-8-1)をもとに、6名の会員加入、1名の退会、7名の変更が説明され、名簿にて承認された。

2-9 第4回理事会開催日程

2021年9月25日(土) 15:00～18:00(MAX19:00 3時間で終わるように努力)

第5回理事会は12月中～下旬(年内)の実施を予定

2-10 その他

財政再建WGの櫻井理事から、各支部の活動の利益を次年度の予算に一部還元するインセンティブの考え方が提示され、審議が求められた。財政難の中でぎりぎりの努力を行っている支部活動の中で、利益の一部をインセンティブとする仕組みは、かえってモチベーションを落とす可能性もあるとの意見もあり、多くの賛同は得られなかったため、この起案は一旦取り下げることとした。ただし、支部活動だけでなく、研究会活動なども含め、頑張っている活動に何かインセンティブを出すというしくみはあってもよいと考えるので、学会の活性化と財政の健全化に向けて、前向きに検討を続けることについては合意した。

3. 報告事項

3-1 法人登記報告

八木橋さんより、新しく監事に就任の高橋先生の手続きが7月30日に完了したことが報告された。

3-2 財務報告

西理事より第3回理事会資料（2021年8月10日）（資料：R3-3-3-2-1）に基づき、前回の報告（5月）から大きな変動があった点として、全国大会の収入が約120万円で利益は約64万円、昨年度同等であったことが報告された。

3-3 委員会報告

（1）編集委員会（担当：木村理事）

木村理事より、理事会_編集_令和3年度第1回学会誌編集委員会議事録（資料：R3-3-3-3-1）に基づき、5月31日に編集委員会がオンラインで行われたことが報告された。東海支部で企業インタビューを行った（株）トヨシマビジネスシステム様には賛助会員になっていただき、新たなネットワークが広がった。

（2）財政再建WG（担当：櫻井理事）

主査の櫻井理事より、2022年度には正味財産3千万になることを目標に、①正会員の増加（会員減の歯止め）、②学会誌の電子化推進、③高収益事業・イベントの実施、④事務局改革などをポイントに、財政健全化に向けた具体的なメニューを議論していることが報告された。（8月2日には9名のメンバーでZ o o mによる検討会を実施）

（3）教育普及委員会（担当：下川理事）

下川理事から、8月3日に委員会を開催したこと、北畠先生に依頼していたセミナーが取り下げになった経緯、国立新美術館で開催されているファッションインジャパンで8月20日のオンライントークを実施すること（57名申込み）などが説明された。また、色彩データ・ライブラリについて、若田先生と連携してサムネイル案を検討し、色彩科学ハンドブック講座をしていく予定があることも伝えられた。次回の委員会は8月末を予定。

3-4 支部報告

（1）東海支部

石原支部長より第53回全国大会実行委員会議事録第1回・2回（理事会用）（資料：R3-3-3-4-1-1）に基づき、来年度の全国大会に向けての計画が説明された。8月31日に第3回の実行委員会が開催され、さらに詳しいことが決められていく予定とのこと。

さらに、2021年度第3回役員会議事録（案）（理事会用）（資料：R3-3-3-4-1-2）に基づき、2021年度の支部の活動計画について説明された。

（2）関西支部

石田支部長より、既に報告済みの4月10日に行われた 関西支部令和2年度第6回役員会議事録（資料：R3-3-3-4-2-1）が提示され、確認した。

7月27日に第1回の役員会で今年度の活動について検討し、実践色彩講座を行うこと、研究会大

会を実施することを合意した。具体的にこれから検討していく。(議事録は後日)

(3) 関東支部

若田理事より、第1回の役員会が8月10日実施され、今年度の活動計画を検討する中で、開催地を限定しないオンラインイベントで支部や研究会の枠を超えた共同企画を行えないかという意見も上がってきていることなどが報告された。(議事録は後日)

3-5 その他

片山理事より、ISO/TC274 国内審議委員会(日本照明工業会の組織)から色彩学会への依頼で、大住先生と一緒にシステムティックレビューを行っていることが報告された。

篠田会長からは、このような日本色彩学会の専門性を活かす社会活動の窓口を組織の中に整え、機能させていくべきではないかとの提案があった。眞鍋理事からは、2年前にJABEE(一般社団法人 日本技術者教育認定機構)の依頼があり窓口となっていることが報告され、今回の一環に加えることが提案された。現在の組織にある「JIS 検討委員会」をもう少し大きな枠組みとして捉え、名称を改めるなどを含め、今回のような活動をうまく組織の中に取り込めるように検討し、篠田会長が次回の理事会で提案することとした。

以上、議題のすべてを終了したので、片山理事が閉会を宣した。

以上